

# 平成27年の第三管区における 船舶海難発生状況について

(速報値)

第三管区海上保安本部交通部

平成28年1月22日

**JCG** 海上保安庁  
JAPAN COAST GUARD

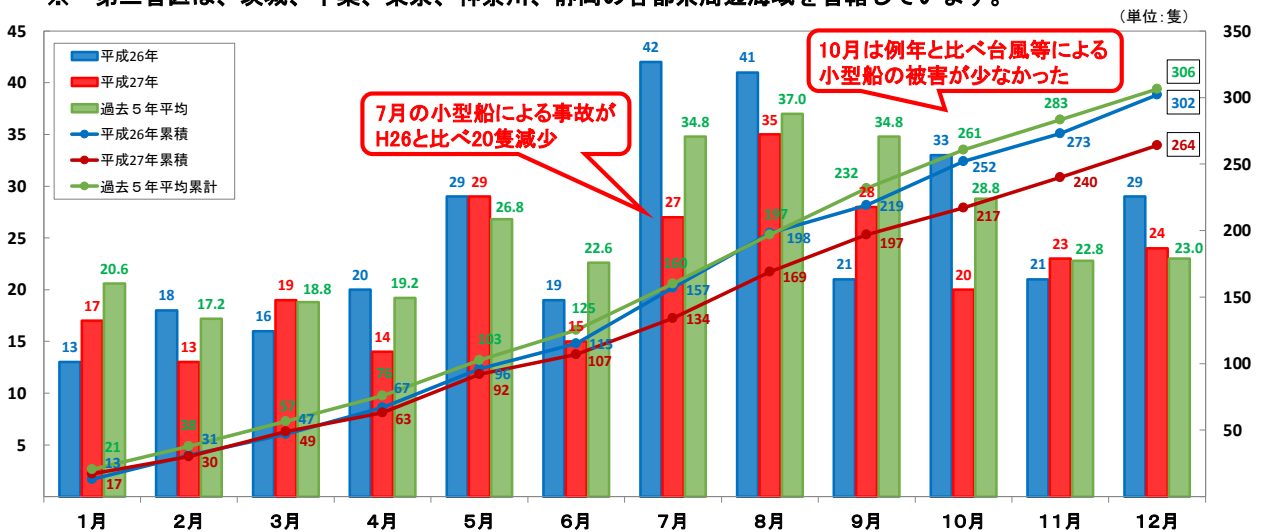


## 1. 船舶海難隻数

**JCG** 海上保安庁

- 平成27年に第三管区管内で発生した船舶海難隻数は264隻  
(平成26年と比べ38隻減少、過去5年平均と比べ42隻減少)

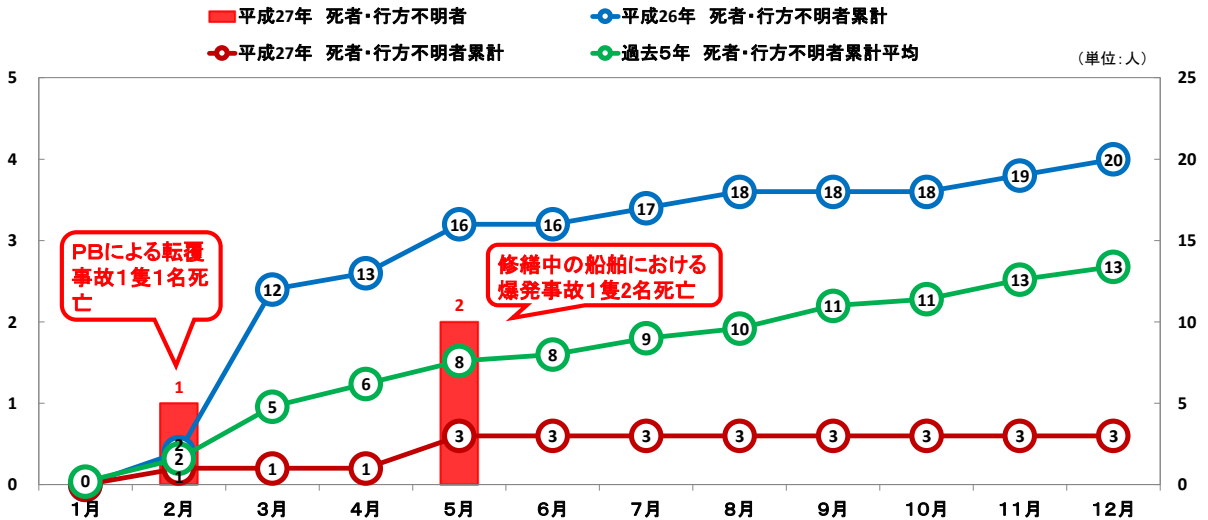
※ 第三管区は、茨城、千葉、東京、神奈川、静岡の各都県周辺海域を管轄しています。



## 2. 船舶海難による死者・行方不明者数



- 船舶海難に伴う死者・行方不明者数は3人（死者3人、行方不明者0人）  
（平成26年と比べ17人減少、過去5年平均と比べ10人減少）

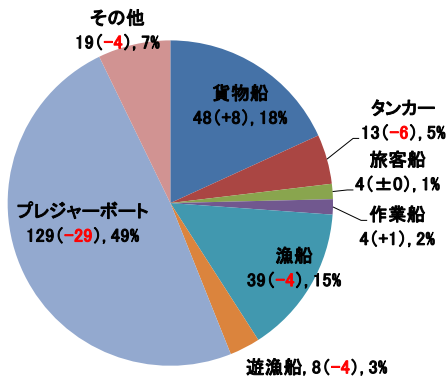


## 3. 船舶用途別隻数



- 船舶用途別では、プレジャーボートによる海難が最も多く129隻（前年比29隻減少、過去5年平均比34.6隻減少）、次いで貨物船による海難が48隻（前年比8隻増加、過去5年平均比3.2隻増加）漁船による海難が39隻（前年比4隻減少、過去5年平均比5隻減少）

平成27年 船舶用途別割合(前年比)



	平成26年	平成27年	前年比	過去5年平均	過去5年平均比
貨物船	40	48	+8	44.8	+3.2
タンカー	19	13	-6	15.2	-2.2
旅客船	4	4	±0	3.6	+0.4
作業船	3	4	+1	4.2	-0.2
漁船	43	39	-4	44	-5.0
遊漁船	12	8	-4	9.8	-1.8
プレジャーボート(※1)	158	129	-29	163.6	-34.6
その他(※2)	23	19	-4	21.2	-2.2
総計	302	264	-38	306.4	-42.4

※1 プレジャーボート:スポーツ又はレクリエーションに用いられるゴムボート、手漕ぎボート、シーカヤック、カヌー等を含む  
 ※2 その他:曳船、押船、台船、はしけ、クレーン台船等

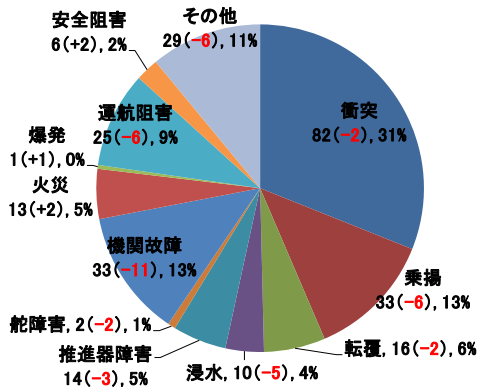
## 4. 海難種類別隻数



- 海難種類別では、衝突が最も多く82隻（前年比2隻減少、過去5年平均比3.2隻減少）、次いで乗揚と機関故障が多く共に33隻（乗揚は前年比6隻減少、過去5年平均比8.6隻減少、機関故障は前年比11隻減少、過去5年平均比14.4隻減少）

(単位:隻)

平成27年 海難種類別割合(前年比)



※1 運航障害:バッテリー過放電、燃料欠乏、ろ・かい喪失、無人漂流  
 ※2 安全障害:転覆に至らない船体傾斜、走錨、荒天難航  
 ※3 その他:操船技能不足、有人漂流、船位喪失等

※2 安全障害:転覆に至らない船体傾斜、走錨、荒天難航

※3 その他:操船技能不足、有人漂流、船位喪失等

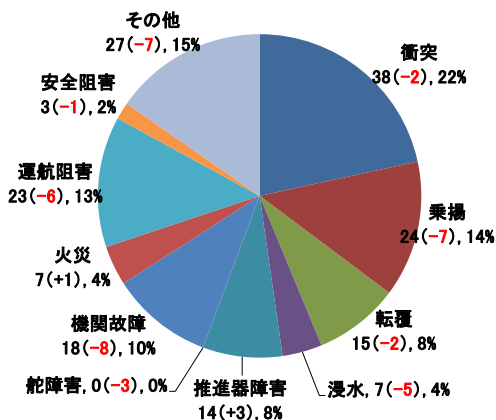
## 5. 小型船の事故減少



- 小型船（漁船、遊漁船、プレジャーボート）における海難種類別では、衝突が最も多く38隻（前年比2隻減少、過去5年平均比5.2隻減少）、次いで乗揚24隻（前年比7隻減少、過去5年平均比10.2隻減少）、運航障害23隻（前年比6隻減少、過去5年平均比3.2隻増加）

(単位:隻)

平成27年 小型船の海難種類別割合(前年比)



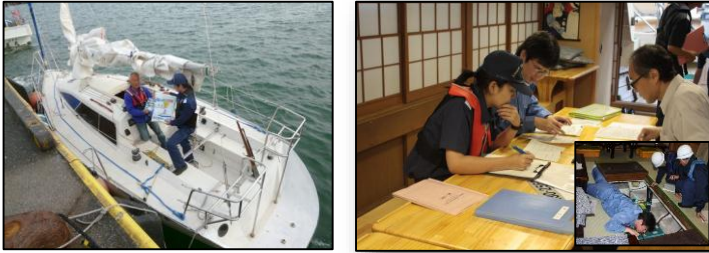
※1 運航障害:バッテリー過放電、燃料欠乏、ろ・かい喪失、無人漂流  
 ※2 安全障害:転覆に至らない船体傾斜、走錨、荒天難航  
 ※3 その他:操船技能不足、有人漂流、船位喪失等

※2 安全障害:転覆に至らない船体傾斜、走錨、荒天難航

※3 その他:操船技能不足、有人漂流、船位喪失等

## 6. 小型船の事故減少に向けて(1)

訪船指導



海難防止講習会



官庁合同パトロール



各種メディアを活用した啓発活動



## 6. 小型船の事故減少に向けて(2)

各種リーフレット作成



MICSスマホサイト活用



関係機関と連携した啓発イベント活動



三機関合同海難防止講習会

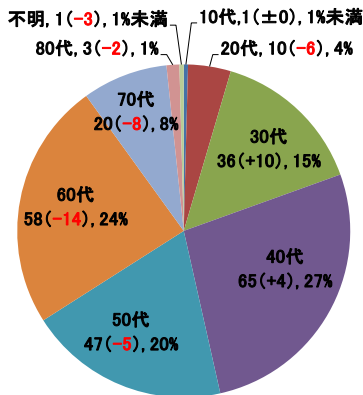


## 7. 船舶操船者年齢層別隻数



- 船舶運航中（操船者有り）の船舶海難隻数は241隻（前年比24隻減少、過去5年平均比35.4隻減少）、そのうち操船者の年齢層別では40代が最も多く65隻（前年比4隻増加、過去5年平均比1隻増加）、次いで60代が58隻（前年比14隻減少、過去5年平均比2隻減少）

平成27年 操船者年齢層別割合（前年比）



(単位: 隻)

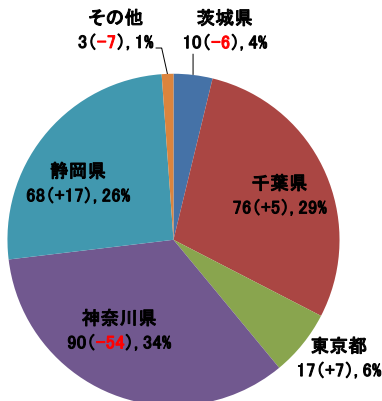
	平成26年	平成27年	前年比	過去5年平均	過去5年平均比
10代	1	1	±0	1.6	-0.6
20代	16	10	-6	16.6	-6.6
30代	26	36	+10	33.4	+2.6
40代	61	65	+4	64	+1
50代	52	47	-5	65	-18
60代	72	58	-14	60	-2
70代	28	20	-8	26.8	-6.8
80代	5	3	-2	3.4	-0.4
不明	4	1	-3	5	-4
総計	265	241	-24	276.4	-35.4

## 8. 各都県別隻数



- 各都県別（※1）では、神奈川県周辺海域が最も多く90隻（前年比54隻減少、過去5年平均比34.2隻減少）、次いで千葉県周辺海域が76隻（前年比5隻増加、過去5年平均比2隻増加）、静岡県周辺海域が68隻（前年比17隻増加、過去5年平均比0.6隻増加）

平成27年 各都県別割合（前年比）



(単位: 隻)

	平成26年	平成27年	前年比	過去5年平均	過去5年平均比
茨城県	16	10	-6	15.6	-5.6
千葉県	71	76	+5	74	+2
東京都	10	17	+7	17.2	-0.2
神奈川県(※2)	144	90	-54	124.2	-34.2
静岡県(※3)	51	68	+17	67.4	+0.6
その他(※4)	10	3	-7	8	-5
総計	302	264	-38	306.4	-42.4

※1 各都県に所在する海上保安部署の取扱い隻数をいう。

茨城県：茨城海上保安部、鹿島海上保安署

千葉県：千葉海上保安部、銚子海上保安部、木更津海上保安署、勝浦海上保安署

東京都：東京海上保安部（離島を除く）

神奈川県：横浜海上保安部、横須賀海上保安部、川崎海上保安署、湘南海上保安署

静岡県：清水海上保安部、下田海上保安部、御前崎海上保安署

その他：管区本部が担当する遠方海域

※2 神奈川県：横浜海上保安部が管轄する離島（東京都）周辺海域を含む

※3 静岡県：下田海上保安部が管轄する離島（東京都）周辺海域を含む

※4 その他：小笠原海上保安署（東京都）の管轄海域を含む

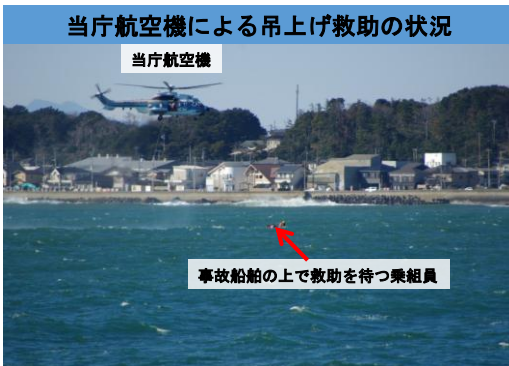
## 9. 平成27年に発生した海難の事例 ①

## ○プレジャーボート転覆海難 (2/1 茨城)

原因：操船不適切

教訓：気象・海象の把握、避難時期の見誤り

概要：海上荒天のため、定係地向け帰港中のプレジャーボート（総トン数5トン、6名乗船）が、左舷後方から磯波を受け転覆、海に投げ出された5名（全員救命胴衣着用）は、消防機関から事故発生との連絡を受け出動した当庁巡視船艇・航空機により無事救助されたが、転覆した船内に取残された1名（救命胴衣着用）については、特殊救難隊が船内から発見したものの搬送先の病院で死亡が確認されたもの。



## 10. 平成27年に発生した海難の事例 ②

## ○貨物船とタンカーの衝突海難 (7/31 勝浦)

原因：見張り不十分、操船不適切

教訓：夜間及び濃霧の際は視認性が低下し操船が困難

概要：夜間、千葉県いすみ市沖を航行中の貨物船（総トン数499トン、5名乗船）とタンカー（総トン数498トン、5名乗船）が、濃霧により視界が制限される中、十分に余裕のある時期に進路を変更しなかった結果、衝突した。両船ともに損傷軽微で航行に支障なく負傷者無し。



## 11. 平成27年に発生した海難の事例 ③

## ○プレジャーボート乗揚海難 (8/9 木更津)

原因：見張り不十分

教訓：見張りの励行

運航予定海域の浅瀬、漁具、防波堤等の存在を事前に把握

概要：千葉県金谷沖を航行中のプレジャーボート（5トン未満、4名乗船）が定置網に乗揚（推進器絡網）航行不能、当庁に対し携帯電話で救助要請（118番通報）、出動した巡視艇により無事曳航救助されたもの。

事故船舶の状況



巡視船による曳航救助の状況

